

アランハント先生のご退職に寄せて

今井裕之

アランハント先生は、外国語教育研究機構時代の2003年に助教授として関西大学に赴任され翌2004年に教授に昇任されました。2009年に外国語学部が創設されて以来、語彙習得論や辞書指導、エクステンシブ・リーディングのご研究を軸に、外国語学部の英語教育の研究と教育にご貢献を果たされました。この度ご退職されるに際し、深い寂寥の念を禁じ得ません。これまでのご功績に心からの敬意と感謝を表したいと思います。

ハント先生とお会いすると、その穏やかな人柄や受容的な態度についつい甘え、英語と日本語を混ぜながらの話が弾んで、廊下での立ち話が長くなることが多かったように記憶しています。ご持病の悪化で療養が必要となった際にも、ご自身が最も苦しいにも関わらず、指導学生や授業のことをご心配くださったことから、ハント先生の利他的なお人柄や生き方を感じることができ、この文章を書きながら、敬意と感謝の念がまた込み上げてきます。

私が関西大学に赴任した2013年には、ハント先生は関大10年のキャリアを積み、学部の中核的な存在としてご活躍されていました。併設校での英語関連イベントの審査委員等を積極的にお務めになるなど、教育熱心な先生としての印象が強く残っています。

比較的最近のことでは、ハント先生の専門演習・卒業演習の履修者が、少なくなった時期がありました（開講曜限の問題が大きかったと思いますが）。その際にハント先生は、ご自身の専門分野を軸にしたシラバスを、学生の関心事や就職後の将来に関連するテーマ設定にガラリと変更され、翌年から再び多くの学生たちがハントゼミを希望するようになったことがありました。このこともハント先生の教育への真摯な情熱を示す出来事の一つだと思います。

それゆえに、ご病気のために学生指導が叶わなかったこの二年間は、先生にとってさぞかしお辛かったことと思います。コロナ禍による大変な時期も乗り越えて、ようやく大学教育も正常化し軌道に乗った頃だったと思うと、とても残念だったに違いないと拝察します。しかしながら、1990年に西宮東高等学校で日本での英語教師としてのキャリアをスタートされて以来ずっと現在に至るまでの、英語教育研究者・教育者としてのハント先生のキャリアも、先生から薫陶を受けた多くの学生たちの学びとその後の活躍も、決してその輝きを失うことはないと思います。ハント先生、これまで本当にありがとうございました。

